

# カモコレ

2020 VOL. 13

鹿児島県始良市蒲生町の魅力満載！

15の着地型観光メニュー



## チョツしもた！ 蒲生の宝が日本中にバレた

会期：2020年3月1日(日)～22(日)

予約開始日 2月8日(土)

総合予約センター 0995-52-0115

(蒲生ふるさと交流館内・受付時間 9:00～17:00 休館日 火曜日)

会場：鹿児島県始良市蒲生町

主催：蒲生郷地域ブランディング協議会 後援：鹿児島県、始良市、始良市教育委員会、始良市観光協会、鹿児島県観光連盟

ウェブサイト  
カモコレ 検索

## 1 日本遺産 (JapanHeritage) とは

全国で82のストーリーが認定されています。

令和2年(2020年)の東京オリンピック・パラリンピックに合わせ、海外からの観光客を各地域に呼び込む受け皿として、文化庁が観光庁などと連携して、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するものです。

日本遺産のストーリーを語る上で不可欠なものが、魅力ある有形・無形の文化財で、これらを各地域が整備・活用し、国内外に情報発信することで、地域の新たな活力を生み出すことが期待されています。

現在、全国で82件のストーリーが認定されており、令和元年5月20日には新たに16件が認定されました。そして、この中の「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く」が、鹿児島県では初めて日本遺産に認定されました。

STORY #059  
宮大工の鑿一丁から生まれた  
木彫刻美術館・井波  
富山県



STORY #019  
政宗が育んだ「伊達」な文化  
宮城県



STORY #032  
鯨とともに生きる  
和歌山県



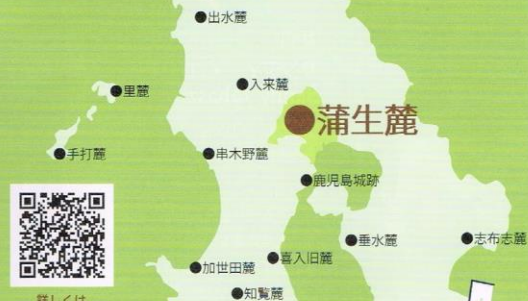
## 2 鹿児島の日本遺産

鹿児島のストーリーは、

STORY #082

『薩摩の武士が生きた町』～武家屋敷群「麓」を歩く～

勇猛果敢な薩摩武士を育んだ地、鹿児島。江戸時代、薩摩藩は外敵からの攻撃に備え、本城(鹿児島城)を中心として、県内各地に外城を配置(外城制度)して、武士団を住まわせていました。その中核地には、「麓」と呼ばれる武家屋敷群があり、現在でも県内各地に数多く残されています。「麓」は防御に適した場所に作られ、門と玄関の間に生垣を配置する等、城郭のような構造もっています。そこでは、武士達が心身を鍛え、農耕に従事し、平和な世にありながら武芸の鍛錬に励んでいました。このような武家屋敷群を歩き見れば、薩摩の武士たちの往時の生き様が見えてきます。



詳しくは、  
鹿児島 | 日本遺産  
薩摩の武士が生きた町ホームページへ！

構成自治体 (1県・9市)

鹿児島県、鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市

麓って、  
いっぱいあるね。



薩摩の武士が生きた町  
武家屋敷群「麓」を歩く





すっごく  
大きくて感動!

## 6 蒲生のクス

※国指定特別天然記念物

目通り幹囲 24.22m で、環境庁の調査 (昭和 63 年) により日本一の巨樹と証明されました。推定樹齢は 1500 年、幹内部に 8 畳敷分の空洞があります。



## 9 掛橋坂

※県指定史跡

18 世紀末の完成で、蘭牟田・祁答院と蒲生を結ぶ地方街道として、帖佐郷にあった藩の御蔵までの年貢米輸送などに利用されました。道幅が狭く危険な板敷きで、道中、最も厳しい難所でした。

*Let's walk with Sandy  
in the historic town, KAMOI!*

## 7 太鼓踊

※市指定無形民俗文化財



島津義弘公由来の伝統芸能で、県内各地で継承されてきました。蒲生では明治初年来、義弘公命日にあたる旧暦 7 月 21 日 (現在は 8 月 21 日) に奉納・公開されています。

## 8 蒲生の紙漉き

薩摩の武士達の多くは、生活のための副業が欠かせませんでした。和紙づくりは約 350 年前に始まり、豊かな水や原料に恵まれた蒲生には、全盛期には約 300 人の手漉き紙職人がいたといわれています。

300 年も前につくられた町並みが  
そのまま残っていて、そこで今もふつうに  
暮らしているなんてステキね!  
あたり前にあるものを大切にしてきたのね。

